

地域イノベーションフォーラム

諫早湾干拓地における防災と環境保全型農業の展開



防災機能の強化と優良農地の造成を目的として2007年度末に完了した諫早湾干拓事業。08年4月には新たに造成された干拓農地での農業も始まり、注目を集めている。諫早湾干拓事業と今後の展望について語る地域イノベーションフォーラムが、このほど都内で開催された。(主催：長崎県)



東京大学大学院 経済学研究科教授 伊藤元重氏

「其論調演」 これからの日本の農業にとって必要なこと

パリニューチェインの発想必要

日本農業について語るとき、問題の本質を見抜く必要はない。農業以外の動きがこの分野にどんな影響を与えるかを常に考える必要がある。例えば少子高齢化、今回のシンポジウムのテーマである諫早湾を例に挙げると、2035年までに労働人口の35%が消費するに手割されていく。これは長崎に限った話ではなく日本全国で同様で、労働人口は消費人口の中で

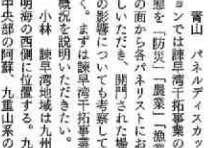
進まない。日本国内の生産者や市場が、あき先的な生産者グループの小売店に頼られる。一方、この場合は、今まで高い関税や輸入税などで守られてきた日本農業が、大きな競争力不足を起していることを示している。国が示しているのは1985年に1ドル80円切った時が、以後日本経済はどっぴやんと失速してしまっている。その間に世界は成

る。先進的な生産者グループは、土壌の検査と農薬の使用量を削減し、コストを削減し、品質を向上させている。これは、消費者が求める品質と価格の両方を満たしている。日本農業の競争力を高めるためには、このような取り組みが必要である。また、輸出可能な農業スタイルの実現も重要な課題である。

アジア視野に新しい日本農業発信

度となく排水や高潮の被害を受ける。排水設備が不足している。また、高潮等の被害も少なくない。一方、08年に営業が開始したばかりの干拓農地では、先導的な農業モデルの取り組みが行われている。すべを目標として造成された農地は、1枚

の畑が1000㎡、6000㎡(6畝)という規模に加え、(5)と(6)に灌漑に加え、灌漑設備を整備。すべての農地はリースとされ、個人・法人合資で41の経営体が安心して農業を営んでいる。



洪水と高潮との闘いの歴史

諫早湾干拓地の状況



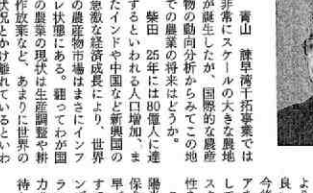
山本氏 新に創出された干拓農地で農業を開始している経営者が、環境にやさしい農業を取り組んでいる。山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。



山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。



山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。



山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。



山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。



山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。



防災機能の低下を懸念

山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。

山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。

山本氏 干拓地は、農業の発展に大きく貢献している。また、環境保全型農業の取り組みも進んでいる。